

誰もが世界一になれるわけでもない
誰もが日本代表になれるわけでもない
それでも人はスポーツをする
昨日の自分に追い越されないために
明日の自分を追い越すために
スポーツに鍛えられた人生は
勝っても負けても きっと負けない

スポーツは、自分を超越するためにある。

スポーツくじ



スポーツくじ (toto・BIG) の収益は、日本のスポーツを
育てるために使われています。

陸上競技研究紀要 第13巻

編集後記

2017年度「陸上競技研究紀要」第13巻をお届けします。投稿論文としては、原著論文2篇、資料3篇です。また、科学委員会から「日本陸連科学委員会研究報告 第16巻(2017) 陸上競技の医科学サポート研究」の論文16篇、医事委員会から「エキサイティング・メディカル・レポート」9篇を掲載しました。いずれの論文も、来る2020年東京オリンピックへ向けて貴重な情報となるでしょう。本年度の特集企画では、「ジュニア競技者育成と相対年齢効果」というテーマを取り上げました。近年のスポーツ科学研究の中で世界的に注目されている研究テーマの一つとして「若い競技者の育成」に関するものをあげることができます。古くて新しいテーマがありますが、昨年度は「若い競技者の育成モデルをめぐる世界の動向」をとりあげ、今回の特集はいわばその続編にあたるものです。

本紙編集作業を進めるさなか、折しも平昌オリンピックが開催されており、連日、日本選手の活躍で日本中が沸き立っていました。我が国のメダル獲得数は、金メダル4個で世界の11番目、メダル総数は13個で長野オリンピックの10個を抜いて史上最多のメダル獲得となりました。

そのメダル獲得競争でトップになったのが、金メダル14個、メダル総数39個のノルウェーでした。やはり、同国の前回ソチ大会で獲得した26個を上回る史上最多のメダル獲得数となりました。このノルウェーの活躍について、興味深い新聞記事を目にしました。「メダル最多ノルウェー、躍進の理由 遊びの延長で冬競技」というタイトルの朝日新聞の記事です。ノルウェー・オリンピック委員会の冬季競技責任者によれば、「継続した取り組みが成果につながった。大きな特徴は『子供に特定のスポーツだけをやらせない』こと。スキーで言えば、北欧の気候から雪と自然に親しむ環境がある。子供たちは遊びの延長で冬季スポーツを始め、夏の競技を含め、成長する中で自分に合った競技を選択していく」とのことです。日本選手では、スピードスケートで活躍した高木美帆選手がちょうどこのモデルに当てはまるでしょう。彼女は、子どもの頃サッカーやヒップホップダンスを楽しみ、また高い能力を発揮していたとのこと。実際、オリンピック後のインタビューでも、子どもの頃にいろいろなスポーツを体験したことが今のスピードスケートに良い結果をもたらしたのではないかと、という実感を語っています。

できるだけ早い時期に才能を見出し専門的なトレーニングを徹底するという方法と、幼少年期にはさまざまな運動やスポーツを体験して基礎を培いながら次第に専門化して行くというやり方があります。この二つの方略は相反し、個人の中では両立はできません。これまで、両者はいずれも成功モデルとして捉えられ、せめぎ合ってきました。実際には、両方向性の選択は、親や指導者、あるいは競技団体や国の方針など選手を取り巻く環境に大きく依存することになります。そして21世紀以降、ジュニア競技者育成に関する国の政策として、多くの国が前者から後者へとモデルチェンジしていることを昨年度と今年度の本誌特集号で紹介してきました。先のノルウェー・オリンピック委員会の冬季競技責任者が朝日新聞に語ったことも、まさにこのパラダイムシフトを如実に物語っているのではないかと想像できます。若い頃にはいろいろなスポーツを経験することがその後の人生に良い効果を与え、エリート競技者にとっては一見回り道のようなようでも、かえって効率的なようです。ジュニア競技者育成に関するこうした理論的背景がトレーニング現場に適用され、その成果がオリンピックなどハイパフォーマンスの檜舞台で結実し始めた、2020年東京オリンピックを間近に控えた今日、ちょうどそのような過渡期に当たっているのかも知れません。

2018年3月
文責 伊藤静夫

【陸上競技研究紀要第13巻 編集委員会】

伊藤静夫(編集委員長)、榎本靖士(編集副委員長)、
高松潤二、森丘保典、青山清英、高橋義雄、桜井智野風、安井年文、眞鍋芳明

【日本陸上競技連盟・事務局】

磯貝美奈子、八幡賢司、粳田竜之助、山口和也

「陸上競技研究紀要」第13巻

2018年3月1日発行

発行人 尾縣 貢

発行所 公益財団法人日本陸上競技連盟

〒163-0717 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル17階

TEL : 03-5321-6580

JAAF Japan Association of
Athletics Federations

Bulletin of Studies in Athletics of JAAF